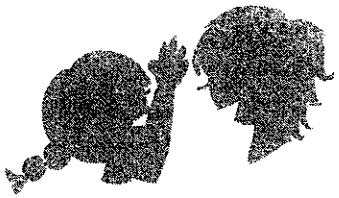
参考資料

## 外国人の子どもの母語について

**母語**というのは、子どもが初めて習得した言葉のことを言います。通常は両親（あるいは両親のいずれか）が話している言葉が子どもの母語になります。幼い外国人の子どもたちは、母語を習得しようとしている真っ最中なのですが、日本で園生活を行うことにより、日本語という母語とは異なる言語での生活をも行わなければならない状況におかれます。わからない言葉の中で生活をするというのは、不安やストレスがさぞ大きいことでしょう。保育者たちは、そのような子どもたちに身振り手振りを交えて思いを伝えようとしたり、その子どもが興味を持った遊びを共に楽しんだりすることによって、子どもとの信頼関係を築きながら少しずつ日本語が理解できるように援助を行います。そして、外国人の子どもが保育者に心を開き始めると、不思議なことに外国人の子どもの日本語習得が急速に進んでくるのです。そして、半年もたたないうちに多くの外国人の子どもたちは、日本語による日常会話が可能になってきます。こうしたことは、保育者だけでなく子どもにも保護者にも非常にうれしいことです。しかし、日本語の習得だけに目を向けている隙に、子どもの母語が失われつつあるという危険性も生まれてきているということにも気づいていく必要があります。

外国人の子どもにとっての言葉の習得や発達は、当然のことながら日本語だけではなく、彼らの母語をも含みます。母語をしっかりと習得することは非常に大切なことです。なぜなら、母語は家族間のコミュニケーションを築いていくために欠くことのできないものだからです。さらに言えば、母語は、自分がどのようなルーツを持った人間なのかを意識していく上でもなくてはならないものでもあるからです。もしも、母語の習得が遮断されたり中途半端になってしまった場合には、家族関係に支障をきたすだけではなく、子どもが自分とは何かということを見つめていく過程で、様々な問題を抱える可能性が高いのです。

また、日常会話であれば、母語も日本語もという2つの言葉が身についているにもかかわらず、考える、創造する、予想するなどの学習を行うために必要な言葉というものが、両方ともに中途半端になってしまうという場合も少なくありません。母語の十分な習得は新しい言葉を学ぶときにも土台となります。しかし、土台のない状態で学んだ言葉は、ある限界以上に深めるということが困難になってしまうからです。

保育者は、家庭では母語で語り合うことを大切にしながら、母語が習得できるような環境を作ってもらうように保護者に伝えると共に、子どもにも日本語だけでなく、母語をも習得していくことを応援しているのだということを伝えていくことが不可欠でしょう。こうしたことは、本当に些細な援助でしかないかもしれませんが、とても大切な援助なのだと思われます。